

# ユーザー 訪問

ヒーロー電機株式会社

〒343-0012 埼玉県越谷市増森1544-8  
越谷市増森工業団地  
☎048-962-1671(代表)FAX:048-962-1670

昭和41年に創業し、自動車配線用コネクターの取り扱いを始める。

翌年、ワイヤーハーネスの販売を開始するとともに東京都渋谷区に作業所を開設。その地名「広尾」をとって43年にヒーロー電機株式会社として法人設立。

初代社長の関健治氏がコネクターの大手メーカー・日本AMPの幹部と学友だったことから、米国AMP社が日本に紹介した圧着技術に早くから注目し、自動車補修用の簡易圧着工具を開発した。当時は、コネクターなどの部品の接続は特殊な技術を要するハンダ付けが主流だったが、当時の営業部長であった安井前社長は全国をキャラバンし、簡単な圧着技術の普及に尽力した。

以来、配線およびバッテリーターミナル、コネクター、各種圧着工具、ワイヤーハーネスなどを日立自動車部品販売(株)(現(株)日立モバイル)を通じ、国内の自動車、建機、重機、船舶の修理工場等に投入し、今や補修市場において高いシェアを誇っている。

平成11年、業務の効率化をはかるために本社を埼玉工場に移転。

13年、環境志向をめざしてISO9002認証取得。15年8月、業界初の銅板を用いたバッテリー渡り線の量産体制を確立した。現在、藤井社長の陣頭指揮のもと、鉛に代わるエコマテリアル=銅の優位性をPRしながら新開発のバッテリー渡り線を市場に投入し、業界に新風を巻き起こしている。



ヒーロー電機株式会社

# 銅板でエコ対策 新開発のバッテリー渡り線



バッテリー同士をつなぐバッテリー渡り線。使い勝手によって銅線の長さが異なる。

バッテリー渡り線。聞き慣れない名前だが、自動車、とりわけトラック業界では馴染みの部品である。その名の通り、バッテリー渡り線はふたつのバッテリーをつなぐ電気の橋渡し役として、二トン以上のトラックに使用されている。バッテリーから得る電気を、トラックの電装部品や電気系統にムラなく確実に供給する重要なパーツなのだ。

ヒーロー電機株式会社が製造するバッテリー渡り線は、国内の自動車修理工場や電装整備工場に出荷されている。これらの納入先は、業界で「補修市場」と呼ばれ、現在、全国を走っている二トン以上の大型トラック約二万台が対象だ。補修市場で五割強のシェア



バッテリーターミナル。錫メッキ前(左)と後(右)

アを占めるヒーロー電機が、銅板を使用したバッテリー渡り線を業界に先駆けて開発し、この八月に量産体制を整えたと聞いて、さっそく、埼玉県越谷市の本社工場を訪ねた。

## 環境に配慮し 鉛から銅へシフト

バッテリー渡り線は、電線とその両端に取り付けられるバッテリー

ミナルからできている。バッテリーターミナルは、ヒーロー電機が昭和四十三年から手がけている主力製品だ。藤井睦社長に話を伺うと、約十年ほど前に、材料を鉛から銅に切り替えたという。

「鉛は、加工しやすく、値段が安いのが魅力です。しかし当社では環境への配慮から業界に先駆けて脱鉛に踏み切ったのです。私たちが普段乗っている普通乗用車の場合、バッテリーターミナルは真鍮製が多い。当初、ヒーロー電機でも真鍮での製造を検討していた。バッテリー交換のときに取り外した真鍮製の板、バッテリーターミナルが腐食が原因で割れてしまう、という事例が全国から報告されていました。『お客様に安心してお使いいただける製品づくり』がポリシーの当社としては、割れる可能性がある材料は使えません。そこで、銅を採用することにしたのです。」



藤井睦社長

製造部の堀田保良部長に、材料特性の面から銅の優位性を伺った。「固い真鍮の加工を容易にするためには、板厚を薄くしなければなりません。一方、銅は比較的軟らかいため板を厚くできます。板を厚くできると、相対的に断面積も増えるため電導性がさらに良くなり、バッテリーから、より効率良く電気を供給することができるのです」

ヒート電機がバッテリーミナルに使用している銅は九十九・九九%の純銅、タフピッチ銅である。これに錫メッキを施して出荷する。緑青がふくと、電気抵抗が増し、



バッテリー渡り線

### 九十九・九九%の純銅に錫メッキを塗布



製造部の堀田保良部長

この秋いよいよ銅板タイプのバッテリー渡り線が、補修市場に本格デビューする。鉛レス、しかも電線とバッテリーミナルはすべて銅でできているので、リサイクル性にも優れた製品だ。

ISO9002の認証を二年前に取得したヒート電機にとって、この環境にやさしい新製品にかけ

### 地道な啓蒙活動で銅の優位性をPR

また見栄えも悪くなり商品価値が落ちるからだ。「当社が製造しているバッテリーミナルは三種類です」

堀田部長が取り出したサンプルを見ると、板バッテリーミナルに電線を圧着する部分の径が、二十二平方ミリメートルから、三十八・六〇の三つのサイズに分かれ、それぞれ銅の使用量は「〇g、三十五g、四〇g」である。



プレス機による圧着作業。ヒーロー電機伝統の圧着技術により、バッテリーターミナルと銅線がきれいに固定される。



る期待は大きい。追い風も吹いている。最近、トラックメーカーでも純正のバッテリー渡り線に真鍮の板タイプを採用する事例が多くなってきたのだ。銅へシフトする動きは、今後ますます増えるはずだと、藤井社長は確信する。

「補修市場でも、環境問題に対する関係者の意識は高まっています。しかし、補修市場はとて保守的で新しいものを容易に受け入れない古い体質も残っているのです。



その中で、鉛よりも割高な銅を認めてもらうためには、地道な啓蒙活動が必要です」

バッテリーは季節商品である。エアコンの使用頻度が増える夏と冬に、バッテリーも良く売れるそうだ。この記事が読まれる頃は、厳冬期に備えてバッテリー交換の需要が高まっているはずだ。銅板を使った新しいバッテリー渡り線の補修市場の反応はいかに…。

吉報は、来年の春に届くはずである。